

7/5(金)・7/19(金) 13:30～15:00 (2回セットの連続講座)

初めての俳句 ～鑑賞から、実作まで～

定員 先着30名 参加費 6,000円以上

いま世界では約70か国の人々が俳句(HAIKU)に親しんでいます。俳句は花鳥諷詠、季節の詩、いのちの詩です。鑑賞を通じて、余白にあるものを探り、季節を味わい、いのちの輝きを見つめます。実作にも挑戦します。一期一会の今年の夏を一句に残してみませんか？初心者の方も大歓迎です。第1回目は俳句の基礎を学びます。第2回目は事前に俳句を作成いただき、講師が講評します。

※2回セットの連続講座のため、申込日は7/5(金)となります。

※いずれか1日のみの参加も可能です。但し、参加費の割引はありません。お申込の際は、その他欄に参加日をご記入ください。尚、7/5(金)以降の申込日は7/19(金)となります(空席がある場合に限り)。

7/6(土) 13:30～15:00

近代建築としての伝道院

定員 先着40名 参加費 3,000円以上

赤レンガの伝道院を目にして、気になっている方も多いことでしょう。今回の講座では、その扉を開き、時代の中での意味を解き明かします。学ぶ場所が、学ぶ対象でもあるというのが、この「TERAKOYA HONGWANJI」の良いところ。皆さんと一緒に建築を見て回りながら、講師が分かりやすい説明を加えます。

講師

倉方 俊輔

大阪公立大学教授。建築史家。伊東忠太の研究で博士号を取得し、「京都 近現代建築ものがたり」「神戸・大阪・京都レトロ建築さんぽ」ほか著書多数。建築公開イベント「東京建築祭」の実行委員長、「京都モダン建築祭」「イケフェス大阪」の実行委員を務めるなど、建築の価値を広げる活動を行っている。



7/11(木) 13:30～15:00

老化と対話する 医療から新しい健康概念へ

定員 先着40名 参加費 3,000円以上

「老化先進国」日本では、「高齢者の多様性」が觀察されます。「寿命の進化的考察」より、「ヒト50歳以降はプログラムされていない」と仮説され、「老化は進化とのトレードオフ」の結果とも言えます。老化恒常性・レジリエンスの存在を我々は意識せざるをえず、新健康概念の創出が期待されます。老化との対話から生まれる新しい医療の可能性を紹介します。

講師

近藤 祥司

1992年 京都大学医学部卒業。京大病院老年内科入局
1995年より 京都大学医学部 大学院
2001年より ロンドン大学、英国癌研究所で細胞老化研究
2006年より 京大病院 老年内科 助手
2010年より 同 院内講師・副科長
2017年より 同 地域ネットワーク医療部 准教授
2020年より 同 高齢者医療ユニット長



講師

黛 まどか

俳人。神奈川県生まれ。1994年「B面の夏」50句で第40回角川俳句賞奨励賞を受賞。2010年より1年間文化庁「文化交流使」として欧州で活動。大学客員教授、オペラの台本執筆、校歌の作詞など多方面で活躍。著書に、句集『北落師門』、随筆『暮らしの中の二十四節気』他多数。



7/10(水) 13:30～15:00

未来へつなぐ短歌 ～短歌を知る、つくる、届ける～

定員 先着30名 参加費 2,000円以上

大河ドラマ「光る君へ」では、登場人物たちが歌で思いを伝えあう場面が描かれています。そして、一千年の時を経た今。私たちはなおも「五七五七七」で短歌を作り続けています。そんな短歌の魅力とは何か、名歌から最新作まで鑑賞しながらお伝えします。後半は、京都大学 人と社会の未来研究院がコーディネートするワークショップ。世界に一つ、あなただけの短歌を未来に残してみませんか。

講師

鈴木 晴香

塔短歌会編集委員。現代歌人集会理事。「西瓜」同人。歌人。歌集に「夜にあやまってくれ」「心があてて」「荻窪メリーゴーランド」(木下龍也との共著)がある。連載「ところで、愛ってなんですか？」(左右社note)。短歌教室を毎月開催中。



7/20(土) 13:30～15:00

オークションの原点 ～日常生活に根付いた オークションの楽しみ方と実践～

定員 先着40名 参加費 3,000円以上

近代オークションは、18世紀中盤(江戸中期)にロンドンの教会で始まりました。教会が庶民の礼拝の場であると共に、日常品のオークション売場を通して庶民を経済的に助けるための場でもありました。今回の講座では、現代的なオークションの役割である無名の芸術家のキャリア支援と、古典的な役割である「モノを大切にすることを育む」という二つのオークションの理念を基に実践します。若手アーティストによる作品の入札スタート金額は1万円から、骨董品のスタートは数千円から開始します。お気軽にご参加ください。

講師

柴山 哲治

本願寺参拝
有限会社膳所焼窯元場炭陶 代表取締役
株式会社AGホールディングス代表取締役
一橋大学経済学部卒業後、三菱商事に勤務、同社退社と同時にハーバード・ビジネス・スクールへ留学。ハーバードで経営学修士取得後、米国ニューヨーク・ロックフェラー家のファミリー・オフィスであるRockefeller & Co., Inc.に入社。その後、世界的なオークション会社サザビーズの日本代表を経てAGホールディングスを設立し現在に至る。



7/25(木) 13:30～15:00

和蠟燭と灯りとSDGs

定員 先着20名 参加費 4,500円以上
(材料費1,500円を含む)

和蠟燭を使用することの意味、和蠟燭がどのように使用されてきたのか、どんな場面で使用されていたのか、和蠟燭がなぜ地球にやさしいのか？和蠟燭について学んだ後に、和蠟燭への絵付けを体験いただきます。

講師

田川 広一 (和ろうそく職人)

1963年2月10日生まれ。1981年、京都日産自動車入社。1988年、先代中村ローソク店主3代目中村良造(義父)の病氣を機に(有)中村ローソク入社。2007年、代表取締役就任。2018年、京都市未来の名匠認定。和蠟燭の原材料のハゼの木の植樹生産「京都悠久の灯プロジェクト」メンバー
合同会社 京都WAKUSU 共同代表
伏見みなとあかり実行委員会 代表



8/25(日) 13:30～15:00

心の回復力を高める 体のツボ「TFT(思考場療法)」

定員 先着40名 参加費 3,000円以上

鍼のツボを指でトントンと自分で刺激することで、不安、怒り、悲しみ、うつ、トラウマ、対人関係などのストレスをリセットし、心を回復させる方法がTFT(思考場療法)です。手順がシンプルで副作用がなく、言葉にできなくても行えるため、幼い子どもから高齢者の方まで活用でき、医療や心理、福祉、教育、スポーツ、戦争や災害現場など幅広い範囲で用いられています。本講座では、TFTのセルフケア版としての心の回復力を高め、ストレスに強くなるための方法を紹介します。自分のために、家族のために、友人や職場の仲間のために活用してください。

講師

森川 綾女

一般社団法人日本TFT協会理事長、TFTセンタージャパン代表。心理学博士、公認心理師、ヒューマンリソース経営学修士。TFT(思考場療法)の第一人者。カウンセリングとTFTや呼吸バイオフィードバックを統合し、心と体の両方からアプローチする回復プログラムを専門家や個人、学校や企業に提供している。災害や人道支援にも従事し、社会起業家たちとSDGsの活動にも取り組んでいる。著書は「つぼトントン」「ツボタッピング1分間セラピー」「たった2分で心がスッキリする体のツボ」など。



8/3(土) 10:00～11:30

空育® JAL折り紙ヒコーキ教室

定員 先着25名(小中学生限定) 参加費 無料

※小学生は保護者1名以上同伴 ※保護者は立見となります。

折り紙ヒコーキ協会の技術指導を受け、認定の指導資格を持った社員が、飛行機の仕組みを取り入れた折り方をお教えます。親子や友達どうしでコミュニケーションをはかりながら、遊ぶことの楽しさを実感していただくワークショップイベントです。

「折り紙ヒコーキ」は、だれでも手軽に楽しめる遊びです。「1枚の紙がおどろくほど風に飛んで飛んでゆく」、それが「折り紙ヒコーキ」です。JALグループでは、「折り紙ヒコーキ協会」の指導のもと認定指導員を養成して、各地で「折り紙ヒコーキ教室」を開催しています。

7/27・8/31(土) 10:00～11:00

リフレッシュヨガ ～脳と身体に癒しとエネルギーを！～

定員 各回先着20名 参加費 各回2,000円以上

脳機能の改善とともに、爽快感が向上・疲労感や抑うつ感が低下するなど、心理面における効果も立証されているシナプソロジー®を取り入れた講座です。

7月「股関節・骨盤をほぐして腰スッキリ」
腰や下半身を中心にじっくり動かし、ほぐし、整えよう！
8月「呼吸を深めストレス緩和」
身体と心そして呼吸に集中し、瞑想を取り入れることで、心身共にリフレッシュし、ストレスを解消しよう！

※持ち物:動きやすい服装、タオル(スポーツタオルサイズ)、水
※更衣室をご利用の場合は男女入替制となります。

講師

内藤 聖子 (株)Fitness Guide 取締役
ミス/株MIZUNOアクアアドバイザー

1993年に大手スポーツクラブに入社。その後フリーランスに転身後もインストラクターとして水陸さまざまなレッスンを担当。現在は四条烏丸にある自社スタジオにて、ヨガやピラティスなど運動指導を実施。またレッスン指導だけでなく、水中エクササイズや健康プログラムの開発や指導者育成セミナー講師も担当。



8/31(土) 13:30～15:00

銅鏡づくりの 過去・現在・未来

定員 先着20名 参加費 5,000円以上
(材料費2,000円を含む)

銅鏡は中国大陸から伝わってきて、平安時代に日本的な意匠になり和鏡と呼ばれるようになります。儀礼で使われる等貴重な物だった銅鏡が江戸時代には日用品となります。ガラス鏡の普及で銅鏡工屋は激減するも、日本ではご神鏡として需要があるためで何とに残りました。その鏡作りや鑑鏡についての説明と、その伝統を引き継ぐための活動についてお話しした後に、実際に鑑鏡を削って、研いで、磨いてお持ち帰りいただきます。

※講座終了後、ご希望の方は工房での実演がご覧いただけます。(伝道院から徒歩約15分)
※紙やすりや砥いで磨くため、汚れてもよい服装でお越しください。

講師

山本 晃久 (魔鏡職人)

世界で唯一手仕事による和鏡・神鏡・魔鏡を製作する山本合金製作所に生まれ、家業に入る。祖父、山本鳳凰に師事して伝統技法を受け継ぎ、全国の社寺の御霊代鏡や御神鏡の製作や博物館所蔵の鏡復元に携わっている。



西本願寺境内(指定場所)
折り紙ヒコーキを飛ばそう
※雨天の場合は、伝道院講座会場とします。